

折々の便り

ふるさと愛南町を遠く離れて生活をされている方に「ふるさとへの想い」をご投稿いただき、新たな交流のきっかけにつながればと「折々の便り」というコーナーを設けています。

今回は、御荘菊川の西川速美さんから「紹介のあった一本松出身で、家庭教育カウンセラーとして活躍されている内田玲子さん」を神奈川県小田原市在住から「投稿いただきましたので」紹介します。

ありがとうございます、ふるさと一本松！

私は、一本松で生まれ育ち、二十一歳で上京して五十一年になります。どんなに淋しい時も、悲しい時も、苦しい時も、ふるさとの山や川は、私に生き抜く力を与えてくれました。「志」を心に秘めて上京し、現在までの五十一年間の道のりは険しいものでした。何度も挫折しそうになりました。その時々、映画のスクリーンの一コマのように、ふるさとの山や川、そして、お遍路さんの歩かれる穏やかな情景が、私の心を勇気づけてくれたのです。

私は、今、家庭教育カウンセラーとして、全国の教育委員会やPTA大会等の講演で、日本各地を飛び回っています。愛南町に講演で伺いました時、参加された方々が懐かしいふるさとをなまりで「玲子ちゃん、帰ったんかなあ」と言って迎えてくださり、親戚の人に会えた思いがして心が癒されたことを思い出します。私の父や母も、現在住んでいる神奈川県で亡くなりましたが、きくと両親も、最後にやさしい「ふるさと一本松」の人々の声を聞きたかったことだろうと思います。

講演先の講師紹介の時など「内田先生は、愛媛県愛南町一本松の出身です」と言われます。この紹介が、私の誇りです。講演の中でも、私の心を育ててくれた一本松の話をよくしています。

今、どの県に行きましても、困った親が多く「内田先生、親の再教育に来てください」と言われます。全国各地で、私たち人間の生活が崩れています。日本の行く末を想うと、不安が募ります。私は、親の生活や心の癖を「ピー」した結果、青少年が崩れていると思います。人生はブーメランです。子育ては、親が育てた通りになっているのです。

今では、年間百六十回ほどの講演をしています。講演依頼を受ける中で、次のような事を言われることがあります。「ところで内田先生は、七十二歳ですよ。保護者に、内田先生が死なないうちに聞かせたい・・・」と、そんな心配をされる年齢になってきました。私は、人生の答えは、自分の心の中にあるということを探求し、広く伝えるために生れてきたように思いますし、そのために、ふるさと一本松を与えられたと思っています。人間だから淋しい事にも悲しい事にも出合います。ふるさとのある事に感謝し「ありがとう、一本松」と念じながら、今日一日を頑張っています。名言に「どんな事でも絶望より希望を持った方がいい」という言葉があります。皆さん、それぞれに与えられた人生の道を良しと受け止め、前進していきましょ。命終わるその日まで・・・

（投稿文） 家庭教育カウンセラー 内田玲子さん



内田玲子さん